

9. 18は日本の中国侵略の第一歩 戦争継続に靖国神社が果たした役割は大きい ウルトラ・ライトの安倍首相にアメリカは警戒感 －「ヤスクニ共闘」9. 18講演会

「憲法を守り、いかす全国教職員いっせい行動ゾーン」のとりくみの一つとして紹介していた、ヤスクニ共闘主催の「9. 18『靖国』と『侵略』を考える市民のつどい」が18日(水)に開催されました。土山秀夫先生の講演は、南京陥落の提灯行列や長中時代の軍事教練など自らの体験から説き起こし、「甘イ言葉ニダマサレテハナラヌ」と現在の安倍政権の危うさについて警鐘を鳴らしました。全体で75名、高教組からは6名が参加しました。

主催者による「9. 18」の経済面からの説明を受けて、政治面での対ソ戦略における満州の重要性を指摘し、奉天軍閥の張学良との抗争、関東軍の板垣征四郎、石原莞爾らの柳条湖事件の内幕を紹介し、9. 18が日本の中国侵略の第一歩と確認することから講演は始まった。

長崎師範学校附属小学校6年生の12月13日に行われた桜馬場から県庁への祝勝行進、さらに夜になっての提灯行列、長中時代の進路決定期の陸軍士官学校、海軍士官学校の学校紹介、太平洋戦争開始時期の靖国神社・護国神社の家父長制になぞらえた超宗教としての神道、そして天皇崇拝などなど、軍国少年・青年を作り上げる環境が知らぬ間に出来上がっていった。同時に、1925(T14)年制定の治安維持法が1941(S16)年に全面改定され、反政府行動だけでなく反政府的言動、さらに自由主義をも取り締まるようになり、物言えぬ日本になり、太平洋戦争に一直線に突っ走っていった。

敗戦後、進駐軍は靖国神社の果たした役割の大きさを認識し、憲法で政教分離を実現させた。その後の松平宮司によるA級戦犯合祀など政教分離のあいまいさに対して中韓の目は厳しい。アメリカは、靖国神社の遊就館の展示にみられる現代史の歪曲を問題視するとともに、ウルトラ・ライトの安倍首相の言動で日中韓の関係が混乱することはアメリカのアジア戦略の害になるとして警戒している。

保守系政治家・右翼系企業家・右翼系学者は国内では勇ましいことをいっているが、海外で論争することはない。アジる(扇動する)事に意義があり、アジることで右翼系企業が資金を提供してくれる。



“ねじれ投票”で衆参両院で圧倒的多

数を占めた、自公与党が憲法改定の為に96条改正を出してくるかは予断を許さぬ状況であるが、最終的に国民投票になった時どういった審判をさせるかが大切と考える。世論調査を精緻に見ると、憲法をあまり知らない人に改正賛成の意見が多く、憲法を知っている人の70%以上が改正反対の意見となっている。憲法をよく知ってもらい、国民投票になったときどうすべきかを問いかけることが大切だ。

―――疲労骨折の後遺症もあり、健康面で気がかりでしたが、講演では頭脳明晰、理路整然、意気軒昂で勇気づけられるとともにしっかりせいとハッパをかけられました。